

三つの堂（大講堂・食堂・常行堂）

圓教寺の三つの堂は、この寺院の豊かな歴史の象徴、その宗教的修行の場、そして千年以上に渡ってここを使用してきた各時代の僧侶たちの日常生活の場として君臨している。大講堂は、三つの堂の北端にある。それは白い小石の広い中庭を挟んで常行堂（常行三昧修行のお堂）に面している。中央の2階建ての食堂は、三つの堂の西端を構成する長い回廊のように見える。

10世紀から15世紀の間に建てられた三つの堂の各建物は、寺院での生活において重要な役割を果たしている。大講堂は、講義や議論が行われる修行の場である。天台宗の寺院に共通する建築様式で、その中心は、内陣を土間としている。このお堂のご本尊は歴史的な釈迦牟尼仏で、知恵の菩薩である文殊菩薩（右）と正しい行いの菩薩である普賢菩薩（左）の二菩薩を両脇に従えている。金色に輝く三尊像が穏やかに中庭を横切り、常行堂の前の舞台を眺めている。年に数回、その舞台で舞樂が奉納されている。

常行堂は、宗教的な祈りの場として特徴付けられている。僧侶たちは折々、常行三昧と呼ばれる瞑想的な修行を行う。僧侶たちは、お堂の中心の大きな阿弥陀仏の周りを、お経を唱えながら、ゆっくりと歩くのである。場合によっては、この修行は食べ物と休憩のための短い休みだけで90日も連続して行われる。このような困難な修行は、非常に困難であるばかりでなく、危険を伴う可能性があり、常行三昧を圓教寺の僧侶が行うことは稀である。

食堂は歴史的には、僧侶が食事をしたり寝たりする場所として使用されていた。1174年に後白河法皇（1127年～1192年）の勅願により創建されたが、1963年まで未完成であった。現在、1階は主に訪問者が功德を積むための写経の場として利用されている。食堂の2階には、圓教寺の長く豊かな歴史に光を当てるさまざまな宗教的および文化的遺産が展示されている。

中庭の周りの建物とそのU字型の配置という優れた条件により、三つの堂はテレビや映画の撮影に好ましい場所となっている。この三つの堂はいくつかの人気のある時代劇に登場しており、トム・クルーズと渡辺謙主演の大ヒット映画『ラストサムライ』（2003）で話題になった。

三つの堂はすべて国の重要文化財に登録されている。